

教 育 警 察 委 員 会 委 員 協 議 会 記 録

1 会議の日時	令和6年11月22日 開 会 午後 0 時 5 8 分 閉 会 午後 1 時 5 5 分
2 会議の場所	第 6 委 員 会 室
3 出席者	委 員 委員長 広 瀬 修 副委員長 山 内 房 壽 岩 井 豊太郎 渡 辺 嘉 山 川 上 哲 也 田 中 勝 士 酒 向 薫 牧 田 秀 憲
	執 行 部 別 紙 配 席 図 の と お り
4 事務局職員	主査 古藤 綾乃 主任 田中 美香

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 デジタル教材の活用について	

6 議事録（要点筆記）

○広瀬修委員長

それでは、ただいまから教育警察委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るために開催したものである。議題は、お手元に配付した次第のとおりである。

執行部の出席者については、本日の議題を所管する部局が中心となっているのであらかじめ了承願う。

それでは、議題1「デジタル教材の活用について」、執行部の説明を求める。

（執行部挨拶：堀教育長）

（執行部説明：山田義務教育課長、棚橋高校教育課長）

○広瀬修委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○牧田秀憲委員

授業の中で、どれくらいデジタル教材を活用しているのか。

○山田義務教育課長

すべての授業で活用しているわけではなく、授業の内容に応じて必要な時に効果的に活用するよう現場の教員に指導している。全国学力・学習状況調査によれば、岐阜県の使用頻度は全国的に見ても非常に高い。

○牧田秀憲委員

授業の理解度により教室を分ける少人数学習について、デジタル教材を活用することでどのような学習を行うことができるようになるのか。

○山田義務教育課長

理解度が高い児童生徒はより難しい問題を解き進み、基礎の定着が不十分な児童生徒は、学習のやり直しや別の問題、前の学習に戻るなど、工夫して、デジタル教材を活用してそれぞれの能力に合わせた学習ができるようになっている。

○広瀬修委員長

小中学校と高校で異なる教材のソフトを利用しているとのことだが、進学した際に児童生徒が混乱することはないか。

○山田義務教育課長

I C Tアドバイザーの有識者からは、子どもの頃から異なるソフトや端末などを体験することは有意義であるとの意見を頂いている。

○棚橋高校教育課長

中学校によって利用するソフトが違うため、高校の全生徒が中学校で使っていたソフトと同じものを使うということは難しい。最初は生徒が戸惑うこともあるが、スムーズに順応できていると認識している。

○広瀬修委員長

異なるソフトを利用することについて、教員にとっての負担はないか。

○林義務教育課教育主管

子どもに比べて年代に幅があることから、教員の方が苦勞していることは事実。研修やI C T支援員を配置するなど、教員に対する支援を行っている。

○広瀬修委員長

ほかに、質問はないか。

(発言する者なし)

○広瀬修委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって質疑を終了する。

他に意見等はないか。また、執行部はいかがか。

(発言する者なし)

○広瀬修委員長

意見もないようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

教育警察委員会委員協議会配席図
(教育委員会)

令和6年11月22日

第6委員会室

